

展示者名 井芹慶彦

講演題名 バイアス補正された気候モデル日降水量出力の空間分布および極値の再現性について

データセット名 バイアス補正されたCMIP3日降水量データ
作成・利用目的 将来の日降水量シナリオ例として
作成・利用期間 1961年1月～2000年12月, 2046年1月～2065年12月, 2081年1月～2100年12月
公開状況 未公開. 要望に応じて公開可能.
ファイル形式 4バイトバイナリー
ファイルサイズ ファイルサイズが大きいもので1月あたり32MB程度

既存プログラム等の提供 状況に応じて提供可能.

・一番したいこと

不確実性の幅をともなった気候変動の影響予測

・一番して欲しいこと

自由コメント
(開発者として)

降水量の将来変化が与える影響についての, 様々な分野を対象とした研究

・将来的な理想像

バイアス補正されたデータが種々の分野に用いられることで, 各分野においてより信頼ある将来シミュレーションを行うには, どのような性質のデータが必要とされているかを明らかにしたい.

展示者名

榎本剛

講演題名

アンサンブル大気再解析 ALERA2

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

アンサンブル大気再解析 ALERA2
時間変化する誤差範囲を踏まえた上での大気現象の解析
2008年1月～2011年1月
<http://www.jamstec.go.jp/esc/afes/alera>で公開準備中。
4バイトバイナリ
1日あたり4ファイル6時間値:14MB

既存プログラム等の提供

既存のものは適宜提供可能。

自由コメント
(開発者として)

・一番したいこと

従来の決定論的な大気客観解析では分からなかった誤差の4次元分布を利用し、不確定性を踏まえた上での現象の再検討や現象に先行する誤差増加の特徴を利用した予測可能性研究。

・一番して欲しいこと

誤差情報を与える解析アンサンブルスプレッド(63アンサンブルメンバーの解析値のばらつき具合)の振る舞いの特徴を地域ごと・現象ごとに詳細に示して課題と可能性を提示して欲しい。

・将来的な理想像

従来の大気客観解析と同様に利用価値が広く認識され、多方面からの利用の要望が高まって、リアルタイム配信が可能な状況が作られること。

展示者名	可知美佐子
講演題名	改良型高性能マイクロ波放射計AMSR-Eと水循環変動観測衛星GCOM-W1による 長期の水・気候データセット
データセット名 作成・利用目的	AMSR-E/AMSR2標準プロダクト、研究プロダクト 衛星による長期間の水・気候データセット
作成・利用期間	AMSR-Eについては2002年7月～現在。GCOM-W1/AMSR2については打ち上げが2011年度冬季予定で、その後初期チェックアウトを実施した後、処理を開始する。
公開状況	AMSR-Eは公開中。AMSR2はデータリリース(2012年予定)後に公開。その後AMSR-E/AMSR2の継続データセットも作成予定。
ファイル形式	AMSR-EはHDF4、AMSR2はHDF5予定だが、どちらもGCOM-W1データ提供システム経由でnetCDFやgeoTiff等に変換可能。
ファイルサイズ	1日あたり14-15ファイル。容量はレベル・パラメータによっても異なるので、詳細はEORC AMSR-E ウェブサイト(http://sharaku.eorc.jaxa.jp/AMSR/index_j.html)またはAMSR2ウェブサイト(近日リニューアル予定。 http://sharaku.eorc.jaxa.jp/GCOM_W/index_j.html)を参照のこと。
既存プログラム等の提供	データ読み込み、画像表示のためのライブラリやツールをウェブサイトから適宜公開している。Fortran/C言語のサンプルなども適宜提供。
自由コメント (開発者として)	<p>・一番したいこと AMSR-Eデータは9年以上の蓄積、AMSR2とその後継センサと連続すれば、20年以上のデータセットとなります。さらに海水密度など過去のSSM/Iデータも利用可能なので、個々のデータセットの作成だけでなく、過去のデータと連続・整合性した、AMSR-E/AMSR2を中心としたマイクロ波放射計の水・気候パラメータの長期データセットを作成したいです。また、未だに衛星データ利用は敷居が高いという意見を多くいただくので、トレーニングやアウトリーチ的な部分も忘れずに拡充したいです。</p> <p>・一番して欲しいこと GCOMミッションの目的のひとつは、長期観測データセット作成によって気候変動研究に貢献することですので、気候変動研究や気候モデル検証・同化等の分野で大いに使っていただきたいです。また、どんなセンサでも長所短所はありますが、衛星も例外ではありません。利用者には、衛星が万能であるという幻想は捨てていただいて、センサやアルゴリズム毎の特性を理解していただいた上で解析に取り組んでいただければと思います。</p> <p>・将来的な理想像 長期データを使った解析や検証、モデル研究等を行った成果が、アルゴリズムの改良・発展にフィードバックするような、開発者-利用者間の流れができるとよいと考えています。新しい分野での利用拡大は簡単ではありませんが、利用者の裾野が広がることと、開発側と利用者がうまく相互作用することで、JAXA発だけでなく、利用者からも発信して、新しい利用可能性を広げていくことができるとよいと思います。</p>

展示者名 勝俣昌己 (海洋研究開発機構)

講演題名 研究船「みらい」ドップラーレーダー観測13年間の軌跡

データセット名 「みらい」Cバンドドップラーレーダーデータ (直交座標系変換済)
作成・利用目的 降水システムの動態の把握
作成・利用期間 1998年～現在 (レーダーが運用された航海期間のみ)
公開状況 JAMSTEC Webにて公開。2010年5月から航海毎に順次処理・公開を開始。
ファイル形式 GrADS 4バイトバイナリー形式 (フォーマットはGrADS ctlファイルとしてWebにて公開)
ファイルサイズ 約7MB (ボリュームスキャン) / 約4MB (ロングレンジPPI)

既存プログラム等の提供 特になし

・一番したいこと

降水システムの形態・動態の把握。特に衛星観測の不得意な「鉛直構造」や「詳細時間変動」について、地上観測の極めて少ない外洋上(極地～熱帯)での知見の蓄積。

・一番して欲しいこと

自由コメント
(開発者として)

「みらい」レーダーデータのより広範囲の研究における利用 (の為に直交座標系に変換、各種フィルタリングなどを施してレーダー専門家以外にも使いやすくした)、及び、その為の改善点の把握。

・将来的な理想像

全自動変換処理、データ精度のより一層の均一化 (現在に加え、降雨減衰処理、地形エコー除去、海面エコー[シークラッター]除去、などの処理を施す)、等を通して、レーダーに詳しくない方でも比較的容易に使用できるようなデータセット化する

展示者名	釜堀弘隆
講演題名	再解析の過去現在未来
データセット名	気候変動研究用再解析
作成・利用目的	気候変動のシグナルが得られる再解析
作成・利用期間	1973～2012年
公開状況	完成後公開予定
ファイル形式	GRIB
ファイルサイズ	約10GB/月(月平均値)

既存プログラム等の提供

・一番したいこと
従来の汎用再解析で出来なかった、気候変動研究に使える再解析
プロダクトを作る。

自由コメント
(開発者として)

・ユーザの皆さんへのお願い
再解析は観測と同等ではなく、要素・時代・高度毎に異なる誤差を持つことを理解し、その適用限界に応じた使い方をしてほしい。
同時に、品質に関するフィードバックもほしい。

・将来的な理想像
誤差評価のためにはアンサンブルが必要。特に、他センターとのモデルアンサンブルが可能になると良い。

展示者名

河宮未知生

講演題名

革新プログラムによる温暖化 予測結果のデータ公開システム

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

CMIP5
温暖化予測
2009-2011年ころ作成
CMIP5参加の一部研究機関によるものから公開中
NetCDF
モデルや使用目的によって様々だが、衛星データと同じ感覚でとらえてもらえればよいのでは。

既存プログラム等の提供 とくになし

・一番したいこと

炭素循環, 極端現象の解析, データ同化導入の効果.

・一番して欲しいこと

自由コメント
(開発者として)

温暖化の影響評価. その他, 気象場, 海洋場の変化の解析.

・将来的な理想像

配布データに付加されたメタデータや, 気候モデル開発者との情報交換に基づき, 気象・海洋場の解析, 影響評価など, 様々な分野で温暖化予測データが利用される.

展示者名

絹谷弘子

講演題名

DIASにおける地球科学データ公開

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

(DIASがアーカイブする様々なデータセット)
データの効果的・効率的な解析と統合利用

<http://dias-dss.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/ddc/> から検索・取得可能

既存プログラム等の提供

CEOP等のDIASの前身プロジェクトや関連プロジェクトのデータなども提供している。

・一番したいこと

多様なデータをメタデータを用いて管理し、検索・ダウンロード提供するための体制、システムの確立を行うこと。

・一番して欲しいこと

他のプロジェクトにおける同様のニーズに関する情報・意見を提供してほしい。

自由コメント
(開発者として)

・将来的な理想像

管理するデータセットを増やし、また他のデータベースとの連携機能を充実させるなどにより、研究者がデータを探す際の入口として標準的に用いられるようになること。

展示者名 久保田尚之

講演題名

データセット名 20世紀前半の西部北太平洋域の台風経路データセット
作成・利用目的 20世紀前半の西部北太平洋域の台風経路データセット
作成・利用期間 台風経路の実態把握
公開状況 1884-1950 (ただし、4つデータセットがあり、それぞれ異なる)
ファイル形式 http://www.jamstec.go.jp/drc/maps/e/kadai/mon/mon_tt.html
ファイルサイズ テキストファイル
1つのデータセットで300kB (圧縮形式)

既存プログラム等の提供 Readmeにデータ形式を記述

自由コメント
(開発者として)

・一番したいこと

これまで利用されずに埋もれていた台風経路データを発掘、復元し、過去100年間の台風変動や気候変動を明らかにする。

・一番して欲しいこと

現在普及している台風経路データセットと同様に研究、防災、気象情報などに利用してほしい。

・将来的な理想像

台風経路データに限らず、世界中の埋もれた気象データが復元され、広く研究や防災、教育に使われること

展示者名 久保田 拓志

講演題名 地球観測衛星による降水観測データ
ー 熱帯降雨観測衛星と全球降水観測計画 ー

データセット名 熱帯降雨観測衛星 (TRMM)、全球合成降水マップ GSMaP、全球降水観測計画 (GPM)

作成・利用目的 衛星による降水観測データ

作成・利用期間 1998年から現在まで

公開状況 TRMM・GSMaPはすべてデータ公開中。GPMは2013年の打ち上げ後にデータ公開予定。

ファイル形式 TRMM・GPMデータはHDF。GSMaPはバイナリとテキストの2種類。

ファイルサイズ 種類によって異なりますので、EORC TRMM ホームページ (http://www.eorc.jaxa.jp/TRMM/index_j.htm) を参照ください。

TRMMデータにつきましては、EORC ホームページでドキュメントやツールを公開中です。次のURLをご覧ください。
http://www.eorc.jaxa.jp/TRMM/documents/PR_algorithm_product_information/top_j.html
http://www.eorc.jaxa.jp/TRMM/documents/faq/index_j.htm

既存プログラム等の提供

GSMaPデータにつきましては、次のURLをご覧ください。
http://sharaku.eorc.jaxa.jp/GSMaP/index_j.htm
http://sharaku.eorc.jaxa.jp/GSMaP_crest/index_j.html
ご質問があれば、TRMM Realtime Office <z-trmm_real@jaxa.jp>までお問い合わせください。

・一番したいこと

現在、日本と米国を中心に全球降水観測 (Global Precipitation Measurement: GPM) 計画が、国際的な協力の下に進められています。2013年にGPM主衛星が打ち上げ予定です。GPM主衛星には、世界初の衛星搭載二周波降水レーダ (DPR: Dual-frequency Precipitation Radar) が搭載されます。DPRの降水推定アルゴリズムの開発やDPRを利用したGSMaPアルゴリズムの高精度化を進めていきたいです。

・一番して欲しいこと

衛星データには長所・短所があります。その長所・短所をよく理解しさえすれば、短所を補い、長所をうまく利用した気象学、水文学等、JpGUのさまざまな分野での利用ができると思います。長所・短所について、学会発表、論文やホームページを通じて、よく情報収集してご利用頂きますようお願いいたします。

自由コメント
(開発者として)

・将来的な理想像

GPM/DPRにより、TRMMでは観測できなかった中・高緯度の衛星搭載レーダによる観測が行われます。二周波アルゴリズムによる高精度な降水レーダデータや、これまでより精度があがった全球合成降水データが生み出されます。GPM時代に向け、降水プロダクトの開発がどんどん進んでいきますので、どうぞご利用ください。

展示者名

Sujan Koirala

講演題名

Global-scale modeling of groundwater recharge and water table depth using a LSM with groundwater representation

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

既存プログラム等の提供

I will be presenting about the model simulated global groundwater recharge, low flow, and WTD in half degree resolution. These data can be used in the global assessment of groundwater resources.

自由コメント
(開発者として)

展示者名 竹中栄晶、他

講演題名 4大学連携VL全球静止衛星データに基づく放射収支の推定

データセット名 全球放射量データセット TKNK_ver.0.1 (仮)

作成・利用目的 放射収支の推定

作成・利用期間 過去解析は2002から順に公開予定、2010～準リアルタイム公開

公開状況 限定公開中、近日中に一般公開

ファイル形式 4バイトバイナリ

ファイルサイズ 空間解像度に依存

既存プログラム等の提供 任意緯度経度地点データの取り出しツール(Pickup)、専用QuickLook画像作成ツール(T-MAP)、等利用に関するツール類

自由コメント
(開発者として)

・一番したいこと

全球高精度放射収支の推定。過去解析で蓄積した解析手法を準リアルタイム解析システムに投入、準リアルタイムで放射収支の推定を実行、解析結果を広く公開する。放射収支の研究を通して雲の気候フィードバックに関する研究に貢献する。

・一番して欲しいこと

現在は太陽放射収支の推定に取り組んでいるため、プロダクトとして光合成有効放射量(PAR)、紫外線A類(UVA)、紫外線B類(UVB)、の解析も行っています。準リアルタイムでこれらデータセットを公開できるため、植生や紫外線影響評価など適用範囲は広く、必要に応じて各分野に応用して頂ければと思います。また、その他の要請にも答えます。

・将来的な理想像

太陽放射と地球放射の高度別波長別の放射収支を準リアルタイムで全球解析し、その解析データを準リアルタイムで公開する。研究者、技術者に限らず、大気放射のデータを必要とする全ての人に情報を提供し、気象情報サービスや太陽光発電量予測などを通じて研究成果を社会にフィードバックする。

展示者名

玉川勝徳

講演題名

GEOSS/AWCIIにおけるデータアーカイブ

データセット名

GEOSS/AWCI(全地球観測システム/アジア水循環イニシアチブ)における流域観測データ

作成・利用目的

アジアモンスーン地域の水問題に取り組むためにアジア各国が相互利用を合意のもと、提供した流域における観測データ

作成・利用期間

国により異なるが基本は2003年～2004年

公開状況

データ統合解析システム(DIAS <http://www.diasjp.org>)から品質管理、ドキュメントメタデータ登録が完了したデータセットから順次公開

ファイル形式

テキスト(csv形式)

ファイルサイズ

1ファイルあたり 数百 KB程度

既存プログラム等の提供

・一番の利点

データ提供者自身によって品質管理がなされた流域観測データを共有・利用できること。

・一番して欲しいこと

例えば、衛星データや数値気象予測モデル出力データを統合的に利用して流出モデル等を構築し、この流域観測データを用いて検証が行われ、洪水予測などができること。

自由コメント
(データ管理者として)

・将来的な理想像

流域における水資源管理の意思決定に有用な情報を提供するために、本流域観測データや衛星データ、数値気象予測モデル出力データを統合的に利用すること。

展示者名 那須野 智江

講演題名 全球非静力学モデルNICAMによる計算データ

データセット名 全球非静力学モデルNICAMによる計算データ
作成・利用目的 全球雲解像数値計算による雲降水現象理解・気候変動予測
作成・利用期間 2005年ー現在
公開状況 個別対応により国内外に公開中(4データセット)
ファイル形式 4バイトバイナリ(Grads形式)
ファイルサイズ 3.5, 7, 14-km格子/単層データ/タイムステップ=200, 50, 13MB

既存プログラム等の提供 NICAM本体のソースコードを個別対応により国内外に公開中(全球一様版、領域集版)。本体利用者はnicam_users mailing list に登録され最新情報が提供される。解析ツール等は整備中なので、協力者が増えると望ましい。

自由コメント
(開発者として)

・一番したいこと

・NICAMによる長期計算、より高解像度の計算(京速スパコンにより可能)。物理過程の精緻化および新たな過程の導入(ビン雲物理、エアロソル、化学物質、海洋結合)。これらによるモデルの気候値の再現性向上や新たな研究課題へのチャレンジ。大気・海洋・陸面、熱帯・中高緯度などに跨るメカニズム、数キロ~全球規模が関わりを持つ現象などを中心に新しい知見得ることを目指したい。観測(衛星・現場)との連携も今後の方向性として重要視している。

・一番して欲しいこと

・計算データを積極的に利用して新しい知見を引き出すこと、モデルのバイアスの原因や改善方策に関する情報のフィードバック。ユーザーとしてだけでなく、モデルの改善や計算実施への参加もぜひ積極的に考えて欲しい。

・将来的な理想像

・ユーザーと開発者が一体となって進むべき方向を切り開く体制の確立。現在、共同研究者も増え、日々理想的な形に近付いている。次世代を担う全球大気モデルの1つとして国際協力の下に多くの優れた研究者の力を集めて開発と研究を進めていきたい。

展示者名	早崎将光
講演題名	日本における大気汚染物質常時監視データ
データセット名 作成・利用目的 作成・利用期間	大気汚染常時監視データ(速報値) 日本国内の広域大気汚染状況調査 2009年4月1日～現在(前日まで自動更新)
公開状況	画像のみ公開. 生データは, 環境省・自治体の了解が得られれば即時公開可能
ファイル形式 ファイルサイズ	CSV 年間700MB(非圧縮時), 県・年度・物質ごとに1ファイル(1-5MB/file)

既存プログラム等の提供 要望があれば提供可能

自由コメント
(開発者として)

- ・一番したいこと
(とりあえず)日本の現在までの大気汚染状況の変遷の調査.
具体例は以下の通り:
 - ・越境汚染起源と思しき高濃度オゾン現象の発生動態(頻度, 空間分布など)調査
 - ・黄砂と大気汚染物質との複合大気汚染状況調査

- ・一番して欲しいこと

過去データ(1990年代前半から, ほぼ全国の確定値の1時間値が利用可能)を含む, 生データの全面公開.
環境省やデータを所管する各自治体の了解が得られれば, すぐにも公開可能.

- ・将来的な理想像
過去データを含め, 大気汚染物質濃度と各種観測データ(気象・海洋・大気質など, in situ 観測だけでなく, 地上&衛星リモセンデータとも連携)を複合利用した, 包括的な「大気環境データベース」の構築.
可能ならば, とりあえず東アジア域全体まで拡大, さらには全球にまで... ここまで来ると, 研究と言うより現業機関の業務になるか?

展示者名

樋口 篤志

講演題名

Daily-PAL 再補正データセット

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間Daily-PAL 全球合成データセット, および可視・近赤外再補正データ
陸域植生長期変動モニタリングのため
1982-2000

公開状況

ftp server で公開 (ftp://geoinfo.cr.chiba-u.jp/pub/products/daily-PAL/)

ファイル形式
ファイルサイズ2byte バイナリ, 種類によっては1byte バイナリ
ひと月分で1チャンネル120MB程度(圧縮形)

既存プログラム等の提供

読み出しプログラムが必要であれば, C言語で書いたものであれば提供可能

・一番したいこと

全球規模での大気・陸面相互作用研究で必要不可欠なデータであるが, Dailyベースとなるとこれしかなく, かつオリジナルは既に公開されていないため, 公開に踏み切った. よく使われているのはGIMMSだが, 別のアプローチでちゃんと衛星データを補正した使えるプロダクトを作りたい.

・一番して欲しいこと

自由コメント
(開発者として)

高次プロダクトユーザは多いが, 衛星データ校正をしようとする人が非常に少ない. 衛星研究はデータをハンドリングするのが大変だが, 現場観測とか, モデル開発に比べればまだまだ楽な方なので, 他のコミュニティへの貢献という観点でも, 衛星データを校正することにももう少し注意を払って欲しい.

・将来的な理想像

NOAA/AVHRR, Terra & Aqua MODIS, GCOM-C と綿々ときれいに繋がる植生プロダクトを作り, 長期変動を論ずるに値する研究をしたい. 既存のデータセットでは, 見かけ上はそれらしいが補正手法が結果オーライ的で気持ち悪い感がある. できる限り理に適った手法を採用し, 一歩一歩改良できるようにしたい.

展示者名

広瀬 民志

講演題名

衛星の代替わりによって引き起こされるISCCP 雲量データの見かけ上の変動

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

International Satellite Cloud Climatology Project のデータ

既存プログラム等の提供

・何が一番の利点だと思っているか？

衛星雲観測データの中でほぼ唯一、全球規模の広い範囲を3時間ごとの細かい時間分解能で観測している点

・将来どんなデータに発展していくことを望むか？

20数年分の蓄積されたデータをいかして、雲量などの精度の高い長期変動の解析を可能に
最新のライダー搭載衛星などの補助を利用してより正確な雲種・雲頂高度ごとの雲データの解析を可能に

自由コメント
(使用者として)

・開発者に対する一番の要望は何か？
データ作成プロジェクトの継続

展示者名

藤井秀幸

講演題名

AMSR-E衛星観測による全球土壌水分データセット

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

AMSR-E衛星観測による全球土壌水分データセット
衛星プロダクトの精度向上と利用推進
2002年6月～2011年4月（日平均、旬平均、月平均）
公開準備中。要望に応じてデータを提供
2バイトバイナリー
1シーンあたり、2MB(アジア域 0.1度格子)、2MB(全球 0.25度格子)

既存プログラム等の提供 不可

・一番したいこと
土壌水分データセットの評価を行って問題点を把握し、アルゴリズムの改善につなげること。

・一番して欲しいこと
まずは、土壌水分の衛星プロダクトの存在を知って頂きたい。

自由コメント
(開発者として)

・将来的な理想
衛星プロダクトが広く認識され、多方面で利用されること。
開発面では、AMSR-Eと、その後継センサーだけでなく、他センサーも使って長期データセットを作成すること。

展示者名 藤井 陽介

講演題名 気象研究所海洋データ同化システムで作成した海洋再解析データセット

データセット名 気象研究所海洋再解析データセット
作成・利用目的 数日から数十年規模の海洋変動の解析のため
作成・利用期間 1950年～2007年(データの種類による)
公開状況 利用を希望する場合は著者までメールで連絡
ファイル形式 バイナリーファイル(GrADS形式)
ファイルサイズ 合計で約2TB

既存プログラム等の提供 希望があれば要相談。

自由コメント
(開発者として)

・一番したいこと

4次元の均質なデータセットであり、さらに観測データを同化することにより現実の現象が反映されているという同化再解析データのメリットを生かして、過去の海洋変動のメカニズムに関する研究。

・一番して欲しいこと

再解析データの精度について確認すると共に、海洋変動メカニズムに関する研究に利用することの有用性を示していただければうれしいです。

・将来的な理想像

ユーザーからの精度に関するフィードバックを受けて、さらに、同化システムの改善をはかり、より高精度のデータセットを提供するというサイクルが構築できたら良いと思います。

展示者名

堀雅裕

講演題名

衛星搭載光学センサを用いたJAXAの地球環境監視データセット

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式

JAXA地球環境監視衛星データセット
地球環境変動の把握・監視およびデータ処理アルゴリズムの改良
2000年～現在(データ領域に異存)
講演で紹介するのは公開中
2byteバイナリー
半月あたりの1ファイルのサイズ(圧縮時)
全球:30MB(日射量PAR)、450KB(積雪)、7MB(曇天率)、5MB(水ストレス)、200KB(火災)、10MB程度(他)
日本:10MB(日射量PAR)、500KB(積雪)、1.5MB(水ストレス)、46KB(火災)

ファイルサイズ

既存プログラム等の提供

プログラムの提供はしていない

自由コメント
(開発者として)

・一番したいこと

長期の衛星データの解析を通して、処理アルゴリズムの性能を評価するとともに、地球環境変数の時空間変動をより良く把握・監視できるノウハウを蓄積すること。次期衛星ミッションに、データ解析のノウハウを継承すること。

・一番して欲しいこと

衛星データと利用者の持つ現場観測や数値モデル計算結果との比較を通して、衛星データの精度検証・向上に資する情報が蓄積・公開されること。また衛星データの新たな利用開拓・提案がなされること。

・将来的な理想像

データの利用が増えることによって、衛星プロダクトの改善・追加などの要望が多方面から集まり、新たな研究・現業利用分野・手法が提案されること。

展示者名 増田 周平

講演題名 JAMSTEC Climate Observation and Synthesis

データセット名 四次元変分法海洋データ同化プロダクト:K7ODA
作成・利用目的 全球気候変動研究
作成・利用期間 1967-2006
公開状況 一部公開
ファイル形式 バイナリー
ファイルサイズ T,S,U,V,Wなどあわせて1スナップショット:100MB程度

既存プログラム等の提供 基本的に非公開。

・一番したいこと
高解像度化

・一番して欲しいこと
気候変動研究への応用

自由コメント
(開発者として)

・将来的な理想像
広く気候変動現象の解明に応用可能な四次元データセットの作成。

展示者名 松岡 大祐

講演題名 海洋大循環シミュレーションの可視化における多変量解析の応用

データセット名 準全球渦解像海洋シミュレーション(OFES)可視化データ

作成・利用目的

作成・利用期間

公開状況

ファイル形式

ファイルサイズ

2001年4月1日-15日(daily、1/30度)、41年~50年積分値(月平均、1/10度)

未公開。要望に応じて公開可能。

静止画(bmp、png)、動画(wmv、mpeg、avi)

静止画:3-5MB、動画:1-300MB

既存プログラム等の提供 既存のものは提供可能。

・利点(使用者として)
複数の物理量から決定される特徴を容易に認識することができる。

・一番して欲しいこと(開発者として)
可視化(高解像度な画像または動画)してほしいデータの提供。

自由コメント

・将来的な理想像
海洋地球科学シミュレーションのデータ可視化におけるカラーマップ(伝達関数)の幅を拡げることで、これまで見えなかったものを視えるようにしたい。

展示者名 松本 淳

講演題名 アジアモンスーン域における降水量の長期変動に関するデータとデータレスキュー

データセット名 Historical rainfall dataset in the Philippines
作成・利用目的 気候変動の地域特性の解明
作成・利用期間 1901-1940年のフィリピンにおける降水量データ41地点
公開状況 http://www.jamstec.go.jp/drc/maps/e/kadai/mon/mon_pr.html
ファイル形式 公開は月単位での降雨状況の図示のみ
ファイルサイズ

既存プログラム等の提供

・一番したいこと 過去100年以上の期間での気候変動に伴う降水特性・モンスーンの変化の解明

自由コメント
(開発者として)

・一番して欲しいこと 様々な地域での降水特性の長期変化との比較。近年における変化との比較。水資源変化の解明。農業生産・生態系変化等との関係の解明。

・将来的な理想像 多様な要望に応じられる図示手法、他のデータセットと容易に比較対照可能な様式等の整備。データの公開。

展示者名

宮澤泰正

講演題名

日本沿海予測可能性実験(JCOPE)の海洋再解析データ

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

FRA-JCOPE2再解析データ
北西太平洋の渦解像度での海況変動の記述
1993.01-現在
公開済
4バイトバイナリー
3TB

既存プログラム等の提供

4倍とバイナリーデータを読み込み、GrADSで読み込み可能なデータ
に変換するFortanプログラム

・一番したいこと 精度評価・研究への活用

・一番して欲しいこと 精度評価・研究への活用

自由コメント
(開発者として)

・将来的な理想像 利用者側の評価をデータ品質改良に反映させ、
再配布するという好循環を実現すること

展示者名

茂木耕作

講演題名

西部熱帯太平洋におけるメソ気象モデルMRI/NPD-NHMの検証

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

気象庁・気象研究所雲解像モデル降水量予測値
西太平洋で実施した航空機観測の経路判断
2008年および2010年の5月～7月
未公開。要望に応じて公開可能。
4バイトバイナリー
1日あたり4ファイル6時間積算雨量: 1MB

既存プログラム等の提供

既存のものは適宜提供可能。

自由コメント
(使用者として)

・一番の利点

現業レベルの高精度・高解像度の予測・再現実験が任意の領域で実施できること。

・将来発展の方向性について望むこと

利用者の増加によって、領域による精度の違いやモデル改善の課題が多方面から提出され、現業と研究の発展的好循環が生まれること。

・開発者に対する要望など

現業側が課題としている項目などを研究業界に広く公表して欲しい。

展示者名

山崎 大

講演題名

河川・氾濫原モデリングのための「河道網」と「氾濫原地形」データセットの構築

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ任意座標系・任意解像度での河道網と氾濫原地形データセット
河川流量シミュレーションによる陸域水循環研究など
必要に応じて随時作成
要望に応じて公開
4バイトバイナリー・テキスト
座標系・解像度に応じる

既存プログラム等の提供

1km解像度の表面流向データを、任意解像度・任意座標系の河道網データに変換するアルゴリズム群は提供可能。さらに、河道網と氾濫原地形データセットを用いて河川氾濫原シミュレーションを行うモデルのソースコードも提供可能。

・一番したいこと

河川流量シミュレーションの高精度化による地表水動態の解明

自由コメント
(開発者として)

・一番して欲しいこと

開発した河道網データや氾濫原地形パラメータ、さらに河川モデルの、生体系や物質循環に関わる研究への応用。

・将来的な理想像

地球システムモデルの一要素として、河川モデルが陸面モデル・生体系モデル・物質循環モデルなどと有機的に結合されること

展示者名 山本 宗尚

講演題名 4大学連携VLで作成・公開された静止気象衛星データの概要と
全球の雲活動特性解析

データセット名 静止気象衛星データセット
作成・利用目的 地球気候系診断(特に放射収支推定)のための衛星観測データ提供
作成・利用期間 1998年以降
公開状況 一部衛星を除いてanonymous ftpで公開
ファイル形式 1もしくは2byteの符号なし整数バイナリ+テキスト(物理量変換)
ファイルサイズ 観測ごとに1ファイル(VIS: 12000×12000、IR: 3000×3000)

既存プログラム等の提供 データ読み出しのサンプルコードは公開。
その他は適宜提供可能。

・一番したいこと

複数のバンド・複数衛星を組み合わせた全球雲・降水活動特性解析
校正済データによる既存研究の検証

・一番して欲しいこと

自由コメント
(開発者として)

FY・GOES・METEOSATデータの積極的な利用
準実時間提供を活かしたプロダクト作成
長期データ蓄積による気候研究活用
多分野のデータ利用

・将来的な理想像

他衛星と同時観測データの提供(共通もしくは単純なフォーマット)
準実時間データの活用

展示者名 吉川沙耶花・萩原健介・石田裕之・鼎信次郎

講演題名 食糧・エネルギー・水資源の安全保障評価

データセット名 1900年～2050年の灌漑地面積データセット
作成・利用目的 過去から未来の水資源量推定
作成・利用期間 2010年から8月から現在
公開状況 未公開。要望に応じて公開可能。
ファイル形式 4バイトバイナリー
ファイルサイズ 空間解像度:1° × 1° (25.7MB)、0.5° × 0.5° (102MB)、
5min × 5min(3.6GB)

既存プログラム等の提供 既存のものは適宜提供可能。

自由コメント
(開発者として)

・一番の利点

基準としているデータが空間解像度5min × 5minのデータを用いているため、基準データより低解像度ならばどのような解像度でも対応可能であること。1900年から将来までの1年毎の灌漑地分布図はどこにもないため、有用なデータであると考ええる。

・将来的な理想像

水文モデルや陸面過程モデルなどに土地利用変化(人間活動)を考慮する際に使用してほしい。

・将来発展の方向性について望むこと

このデータは、灌漑地システムの整っている地域を示す分布図であり、過去のあるときに灌漑をしていた地域をしめすデータではない。そこで、過去の灌漑地使用状況を見積もる際には、衛星データなどから推定される灌漑地域を別のデータセットとして作成し、その差を明らかにしておく必要があると考える。

展示者名

芳村圭

講演題名

過去140年間の全球水同位体再解析

データセット名

20世紀水同位体再解析

作成・利用目的

水同位体比が持つ数時間～数十年スケールのシグナルのメカニズム解明に資するため

作成・利用期間

1879/1/1 0Z～2008/12/31 24Z

公開状況

公開。ユーザー申請が必要。

ファイル形式

GRIB、4バイトバイナリ

ファイルサイズ

全1.6TB。一年当たり12GB程度

既存プログラム等の提供

既存のものは適宜提供可能。

<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/~kei/IsoGSM1><http://g-rsm.wikispaces.com/Isotope+and+Water+Vapor+Tracer>

・一番したいこと

年輪セルロースやサンゴ、石筍など、長期的な気候プロキシの定量的かつ包括的な「意味づけ」が可能となること。

自由コメント
(開発者として)

・一番して欲しいこと

マイ同位体データと比べてもらいたい。どのようなメカニズムで時空間変動が形作られているのか、調べてほしい。

・将来的な理想像

多数の研究者が自分の観測データと比較することで、データセットとしての精度が明らかになり、なにが原因で精度が落ちているのかを特定することにより、さらに精度のよいデータセットを作成する。(それらの観測データを使った同位体同化も視野に入れる)

展示者名

渡部雅浩

講演題名

気候モデルMIROCによる長期コントロール実験

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズ

気候モデルMIROCによる長期コントロール実験

既存プログラム等の提供

詳細は<http://amaterasu.ees.hokudai.ac.jp/~fswiki/miroc/>参照。

自由コメント

展示者名

渡部哲史

講演題名

水資源分野における温暖化影響評価のためのGCMバイアス補正データセットの開発

データセット名
作成・利用目的
作成・利用期間
公開状況
ファイル形式
ファイルサイズバイアス補正済みGCMデータセット
水資源分野における温暖化影響評価
1948-1998, 2013-2097,
未公開。将来的には公開したい。
4バイトバイナリー
1日あたり 約1MB

既存プログラム等の提供

現在試作段階のため不可。
但し、将来的には提供可能としたい。自由コメント
(開発者として)

・一番したいこと

本データを用いて、気候変動下での水資源アセスメントを行い、バイアス補正が影響評価研究に与える影響について理解をすすめること。

・一番して欲しいこと

水資源マネジメント分野のみならず、様々な分野での影響評価研究に本データを用いて頂き、バイアス補正手法による影響評価における結果の違い等を報告していただくことにより、補正手法の課題の発見や、今後の改善につなげていきたい。

・将来的な理想像

補正手法は目的により異なるものが最適となりうるので、複数の補正手法について詳細な情報を示し、利用者の目的に応じた補正手法が選択可能となるようにしたい。
また、補正值の傾向を理解することにより、GCM自体の特性の理解の一助となれば理想的である。